

平成 17 年度 舳倉島夏季総合健診実施報告書

平成 17 年 8 月 15 日

舳倉診療所長 増山 聡子

平成 17 年度の舳倉島夏季総合診療は、石川県・輪島市の主催により 8 月 6 日(土)、7 日(日)の 2 日間に渡り実施されました。昨年度は台風の為に中止せざるを得ませんでした。今年度は晴天に恵まれ、予定通りの日程で滞りなく終了することが出来ました。この総合健診にお力添えをいただいた関係者の方々に感謝し、ここに実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対し、「耳鼻咽喉科・眼科・外科・内科」診療を実施し、もって舳倉島住民の保健医療の向上を図る。

2. 日程

平成 17 年 8 月 6 日(土)	午後 1 時 30 分～午後 5 時 (上部消化管内視鏡検査は午後 2 時から)
8 月 7 日(日)	午前 9 時～正午 (上部消化管内視鏡検査は午前 8 時から)

3. 診療科目・場所

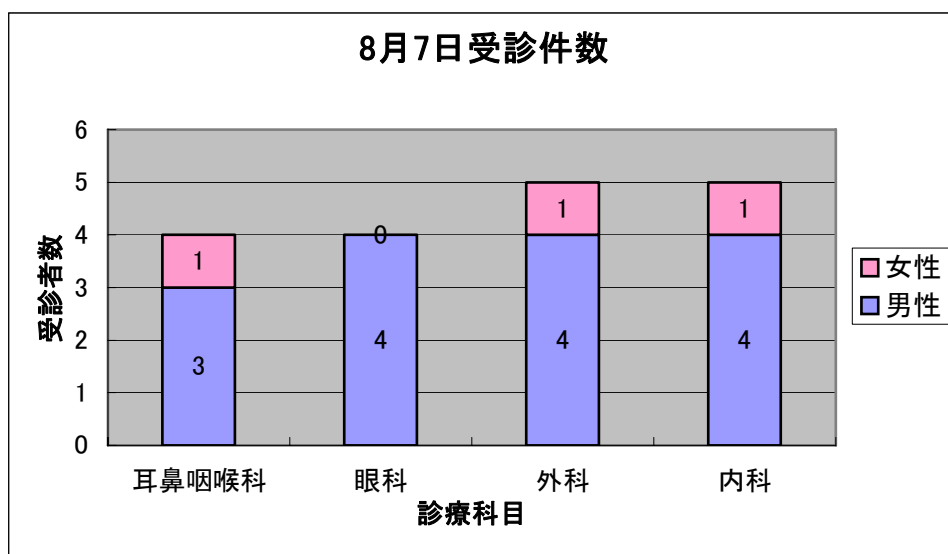
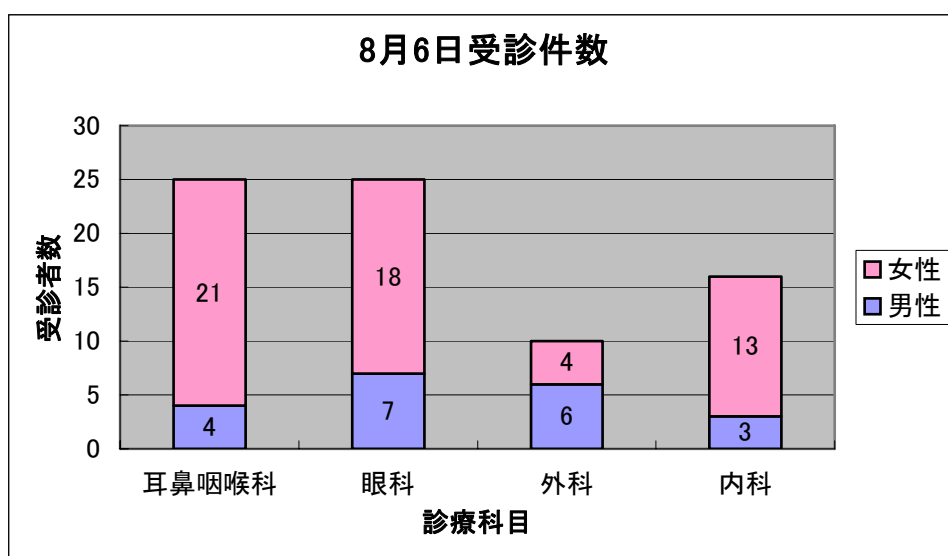
石川県輪島市海士町所属舳倉島出邑山 1-4	舳倉島開発総合センター1 階
玄関ロビー	: 受付
診察室	: 外科(上部消化管内視鏡検査)
検査室	: 眼科・レントゲン撮影
コンピューター室	: 耳鼻咽喉科
保育室 1	: 内科
保育室 2	: 聴力検査

4. 平成 17 年度総合健診スタッフ

耳鼻咽喉科	小森 貴	医師	(小森耳鼻咽喉科医院)
	小坂 絢乃	看護師	(石川県立中央病院)
眼科	山本 ひろみ	医師	(金沢西病院)
	林平 成子	保健師	(輪島市)

外科	高島 一郎	医師	(金沢有松病院)
	山本 淳子	看護師	(石川県立中央病院)
内科	吉田 尚弘	医師	(市立輪島病院)
	松田 敏恵	看護師	(石川県立中央病院)
受付	野崎 智弘	主任主事	(県庁医療対策課 管理グループ)
	越島 淳子	主事	(県庁医療対策課 管理グループ)
	澤田 卓也	主事	(県庁医療対策課 医療企画・看護グループ)
雑務	増山 聡子		(舳倉診療所)

5. 受診状況



本年度の受診者数は2日間でのべ53人（男性：女性＝22人：31人）、受診件数は合計94

件であった。島民の皆様の御好意で、健診初日の 6 日（土）を特別に沖休みにしていただき、この日に受診が集中した。例年、受診件数は 100 件を越えていたが、学校の閉鎖（ちなみに 7 月から 9 月までの 2 か月間、中学校のみ開設された）や灯台の無人化が物語るように、島の人口は減少の一途をたどっており、それに伴い受診件数も年々減少傾向にある。受診人数（53 人）と受診件数（94 件）の間には差があり、同一の患者が複数の診療科を受診する傾向がうかがえる。この様に、健診に関心のある島民（主に高齢者）は複数科にわたって受診する、そうでない島民（主に若年層）は全く受診しないという二層構造が例年あると思われる。

6. 各科診療内容

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科の診療を担当していただいた小森 貴医師は昭和 58 年より現在に至るまでの 23 年間、この総合健診のリーダーシップをとっておられる。健診が行われるようになった当初より、毎年の健診を楽しみに受診されている島民も多い。今年度も例年通り、喉頭ファイバー・副鼻腔 X 線検査・オージオメーターによる診察が行われた。有所見者の割合は 8 割であり、海士という職業に関連して外耳道炎・中耳炎などが多かった。小森医師がイヤパティー（耳栓）の使用を勧めるようになって以来、新たな外骨腫の発生はないとのことである。「島民の方々が元気に働ける様、海に潜るといふ職業の特殊性を理解し、それに見合った対応をしなければならない」という小森医師の言葉に、長年にわたる診療の歴史の重みを感じた。



写真 1. 耳鼻咽喉科診察風景

眼科

今年度の眼科診療は山本 ひろみ医師に初めて参加していただいた。視力検査・レフラクトメータ・細隙灯顕微鏡検査・眼底鏡検査から治療方針・処方の指示にいたるまで、山本医師には多岐にわたる、きめ細やかな診療を行っていただいた。舩倉島には高齢者が多い故に、高血圧・糖尿病などの慢性疾患を持つ患者が多く、年1回の総合健診は、それら全身疾患に伴う眼病変のフォローアップの貴重な機会でもある。今年度も受診件数が最も多く、改めて島民の方々の眼科診療に対するニーズを感じた。



写真 2. 眼科診察風景

外科（上部消化管内視鏡検査）

高島 一郎医師も小森医師同様、この総合健診を当初より支えてこられた。高島医師自身、自治医科大学の出身で舩倉島での勤務経験がある為、島民の方々ともなじみが深い。今年も上部消化管内視鏡検査以外でも、高島医師を指名して診察を希望される方がおられた。2日間で15人が上部消化管内視鏡検査を受け、3名に対して生検が行われ、1名に内服治療の指示をいただいた。有名な話であるが、この健診により早期胃癌を指摘され、手術を行い現在は元気に社会復帰されている方もおられる。上部消化管内視鏡検査は、日常、診療所医師が1人で気軽に施行できる検査ではない為、年1回の検査は非常に心強い。

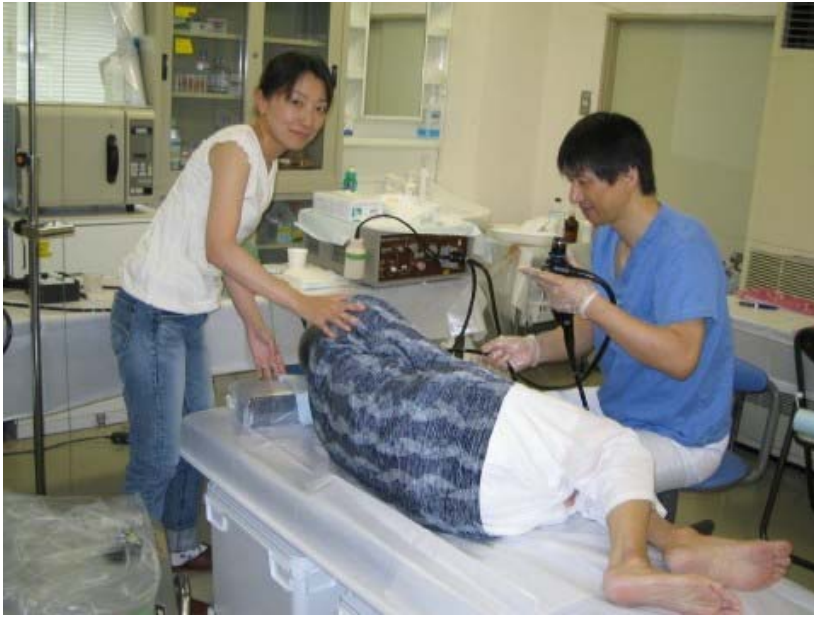


写真 3. 上部消化管内視鏡検査診察風景

内科

内科診療は、輪島病院の内科に勤務する吉田 尚弘医師に担当していただいた。身長測定・体重測定・血圧測定・検尿・血糖測定を全例に施行し、必要に応じて心電図・超音波検査を追加した。前述のごとく、当診療所では慢性疾患の管理が診療の中で大きなウエイトを占めている。内科健診は、診療所医師の日常診療を他の医師の目で評価し、フィードバックを得ることが出来る良い機会である。また、内科健診を担当する医師は冬季に舳倉診療所に着任する為、引継ぎの面でも重要な意味合いを持つと思われる。



写真 4. 内科診察風景

7. 総括・反省点

総合健診初日終了後、スタッフ全員参加による反省会が開かれた。以下にその概要をまとめた。来年度以降の総合健診をより良いものとする為に役立てていただければ幸いである。

- ・ 今年度から、上部消化管内視鏡検査の予約を 10 分単位のスケジュールとした。これにより患者の待ち時間の短縮され、スタッフも時間に余裕を持って対応できたとのことである。来年度以降もこの方式で行うことが望ましい。
- ・ 感染症対策として、今年度より内視鏡器具の消毒を厳密なものとした。来年度以降も同様の方法で行う方針である。また、上部消化管内視鏡検査および喉頭ファイバーにおいては、感染症陽性患者の情報を事前に欲しいとの意見があった。診療所長は日常診療の中で感染症陽性患者を把握しており、可能と思われる。
- ・ 内科と眼科においては、普段の投薬内容を確認する為、診療所カルテを参照したいとの意見があった。健診 2 日目より対応したが、問診・処方など円滑に行われた様に思う。
- ・ 眼科においては、散瞳検査など時間のかかる検査を希望する患者をおおまかに把握し、受診する時間帯を割り振ることができれば、待ち時間が短縮され効率よく診療が行えるのではないだろうか。ただし、予約制にすると敷居が高くなり、受診しづらくなる恐れがある。
- ・ 円滑に準備を進める為、「どの備品を、誰が、どこから借りるのか」を分かりやすくする。
- ・ 各スタッフとの連絡はメールにて行う。

8. 謝辞

最後になりましたが、総合健診を行うにあたり御尽力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。今後もこの総合健診が舳倉島民の健康の維持・増進に寄与することを願っております。

舳倉診療所長 増山 聡子



写真 5. 集合写真